

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

| 都道府県名 | 事項名 | 取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。) | 実施結果(効果、問題点等) | 平成21年度計画作成に当たり参考となる事項 |
|------------------|-------------------|--|---|--|
| 三重県 | 【安定的な集団献血の確保について】 | 1 献血実施場所の近隣企業への協力依頼 2 大企業、官公庁の献血実施時の通勤時の献血呼びかけ 3 血液センターHPを随時更新し、バスの配車予定や不足している血液型等の情報を呈示 | 1 近隣企業からの協力を得られた。 2 献血実施日の早朝、通勤時にティッシュを配布。 3 HPにより、献血場所、不足血液型の周知並びに献血メールクラブの会員募集を実施。 | 特になし |
| 滋賀県 | | ・年1回であった実施先に2回の取組を依頼 ・ロスタイム軽減のため、献血申込者があらかじめわかる場所は時間割の作成を実施先に依頼 | 待ち時間の短縮とロスタイムの軽減の効果があつた。 | |
| 京都府 | | 1 事業所への協力要請 2 移動採血車の配車体制の整備 | 事業所での献血は、安定的な血液の確保が図れるが、業務中断を理由に協力が得られない場合がある。大型店舗では休日の場合、駐車場の確保が困難 | |
| 京都府赤十字血液センター | | ① 献血協力企業に対して事前渉外活動を充実させ献血日等の周知を徹底してもらう。 ② 献血会場周辺企業に対する献血協力依頼の推進 ③ 定期的(年複数回)に実施してもらう献血協力企業の確保 ④ 大学での献血実施時に、学生献血推進協議会と連携をとった取組みとしていく。 | ・企業サイドの事情(業績が伸びていると忙しく協力が減るケースもある)を事前に掌握でき予定人数の予測が付く。 ・会場周辺企業にお願いし、1名でも協力者が増える。 ・大学での取り組み時に、学生の呼びかけが増えることで、協力者が増えた。 | |
| 大阪府 | | ◎市町村献血推進協議会個別に訪問し、集団献血のお願いを行った。 | 各市町村において地域密着型の献血推進が図られ、献血の一定確保が図られている。 | 今後とも、市町村献血推進協議会を連携し、安定的な集団献血を実施していく。 |
| 大阪府赤十字血液センター | | ①ロータリークラブの例会時における「団体献血の取組」に関するアンケートの実施 | ①12団体の新規協力があつた。また、国際ロータリー2660地区でのキャンペーンも実施していただいた。(5,000人の400mL献血の確保に努めていただいた) | ①移動献血車の配車可能な規模の企業が少ないため、献血ルームなどの固定施設に合流していただくなどの取り組みを行っていく。 |
| 兵庫県・兵庫県赤十字血液センター | | 献血者の減少傾向がみられる夏季(8月)及び年末年始(12～1月)の期間を献血推進強調月間(期間)とし、この期間に、県内の主要企業・団体に対して協力要請している。 平成20年度においても同様に実施する予定。 | 平成19年度実績 ・夏季 協力依頼団体等数 87 ・年末年始 協力依頼団体等数 133 | 職場献血における受付時間の調整、参加しやすい環境づくり |
| 奈良県 | | 地域の住民や各種団体等への円滑な情報提供を目的とした市町村担当課職員研修の実施及び経営者協会等各種既存団体への協力依頼並びに献血に功績のあつた団体の表彰による献血推進組織の育成 | 研修受講者や献血協力依頼団体等、対象者が同じになりやすい。 | 献血協力団体・協賛企業の貢献について、高い評価が得られるなど実質的なメリットの制度化を推進して社会的意義を高め、企業等団体の献血への協力を強く誘引する。 |

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

| 都道府県名 | 事項名 | 取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。) | 実施結果(効果、問題点等) | 平成21年度計画作成に当たり参考となる事項 |
|------------------|-------------------|--|--|---|
| 和歌山県 | 【安定的な集団献血の確保について】 | <ul style="list-style-type: none"> ・献血推進支部協議会活動における保健所、市町村、血液センターの連携 ・移動採血車運行日程を県ホームページに掲載 ・県職員、警察官、教員等による献血協力職務専念義務免除措置実施 ・献血サポーター参加企業の拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ・市町村による地域団体、企業献血担当者への情報提供、情報共有実施等連携強化。 ・協力予定者に献血情報提供。 ・献血に参加しやすい環境づくり支援。 ・実施日に早期ピラ配布。 ・新規、既存の団体から関連企業団体を紹介 | 継続実施 |
| 富山県・富山県赤十字血液センター | | <ul style="list-style-type: none"> ◎比重不足などで献血できなかった者に対しての保健師による健康相談の実施 H19.6～H20.3 27回 対象者222名 ・献血協力団体への複数回献血への協力依頼 | <ul style="list-style-type: none"> ・県厚生センター、中核市保健所の協力を得て実施しており、対象事業所などからは大変好評であるが、保健師の確保や事業所との調整が大変である。 | ☆女性のみヘモグロビン測定器でチェック |
| 石川県 | 【複数回献血者の確保について】 | <ul style="list-style-type: none"> ①複数回献血クラブのポスター、リーフレットを大学・事業所、採血現場等で配布 ②健康相談事業(肝炎関係(月1回)、健康全般(月2～3回))の実施 ③ホームページの充実により募集の強化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ①リーフレット作成し、固定施設・移動採血現場等で配付した。 ②健康相談(肝炎関係(月1回)、健康全般(月2回))の実施 ③ホームページの内容について全面更新した。 | 引き続き計画、実施の予定 |
| 福井県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・県庁、市役所等での定期的な献血の実施 ・新規事業所の開拓 ・事業所担当者との連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・安定した血小板製剤の確保。 ・職員の理解度の向上、献血者数の増加。 ・企業の地域貢献が明確になり、継続的な協力や緊急的な計画に対応できる。 | ・血液を確保する上では非常に有効な取組であり、21年度も引き続き計画に組み入れる予定。 |
| 岐阜県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血の推進 複数回献血者クラブの会員募集 同一企業へ複数回の配車依頼 新規献血者に対し再度の献血を勧めるリーフレットの配布 | <ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血者の増加 | 継続実施 |
| 静岡県 | | <ul style="list-style-type: none"> 血液センターが実施する複数回献血協力者確保事業に、県内市町とともに広報を行う等の協力を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> 複数回献血者の増加 | 特になし |
| 愛知県 | | <ul style="list-style-type: none"> 複数回献血者層の拡大 | <ul style="list-style-type: none"> 400mL献血に特化した複数回献血キャンペーンの実施 | 複数回献血者の増加 |

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

| 都道府県名 | 事項名 | 取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。) | 実施結果(効果、問題点等) | 平成21年度計画作成に当たり参考となる事項 |
|--------------|-----------------|--|--|---|
| 愛知県赤十字血液センター | 【複数回献血者の確保について】 | 複数回献血者を献血者全体の35%まで上昇させる。 会報、電子メール等で健康増進や血液に関する複数回献血者へ情報提供を行う。 | 複数回クラブ会員を対象にヨガ教室講座を3回開催 複数回献血者は、28%と昨年度より3%上昇した。 | 平成20年度より電子メールでの献血依頼を実施することとした。 |
| 三重県 | | 1 献血応募者に対する電話での依頼 2 定期的にキャンペーンを実施し、複数回献血者を募集 3 HPを随時更新し、バスの配車予定や不足している血液型等の情報を呈示 | 1 各献血会場で献血依頼応募者の募集を実施。 2 血液型不足時に献血依頼応募者に協力を依頼。 3 HPによる献血場所、不足血液型の周知、献血メールクラブの会員募集。 | 特になし |
| 滋賀県 | | ・複数回献血クラブの設置 ・クラブ会員への情報提供・献血依頼 | リーフレット配布。 携帯電話、パソコンを利用した献血登録者の募集および複数回献血者に対する情報提供。 血液在庫不足時の献血依頼。 | 血液在庫不足時および平常時に登録者に対し、機動的・効率的に呼びかけを行うことが可能となる。 |
| 京都府 | | 1 複数回献血クラブの充実 2 献血者への継続的な情報の提供 | 血液製剤の在庫不足時における献血者の確保 | 1年間の複数回献血者登録の目標値の設定 |
| 京都府赤十字血液センター | | ①新規会員の募集 ・献血ルームを中心に「登録強化週間」を設定し、対面による集中的な募集を図った。 ・移動採血では街頭献血、大学取組時に募集を行った。 ・会員向け情報提供チラシを新規募集時に活用した。 ・国庫補助事業として講演会、 ②会員への情報提供 ・キャンペーンやイベント情報などを毎月1回メール配信している。 ・会員向け情報チラシを作成・配付した(登録・情報変更等に関する内容)。 ③国庫補助事業 ・健康相談事業:ヨガ・ボールエクササイズの講座を開設 ・講演会:複数回献血クラブに関するミニ講演会とヨガ教室を実施 ・情報チラシを作成 ④献血依頼メール ・特定の血液型の血液が不足したときに献血依頼メールを送信した。 | ①登録強化週間の実績 3回実施し、210人の新規登録があった。年度の総登録者数の7.2%にあたり、効果が大きい。期間中、職員が手作り登録強化週間バッジを着用した第3回目は、103人の登録があった。 ②国庫補助事業 ・ヨガ・ボールエクササイズの講座(参加64名) ・ミニ講演会とヨガ教室を実施(参加20名) ③献血要請メール 延べ7回、1,849人に要請し、平均13%の応諾があった。応諾期間を1週間程度とした統計としては安定した数字となっている。 ④問題点 アドレス変更などによる不着が多く、メール配信が多ければ多いほど登録解除になってしまう会員が増えてしまう。新規増も大切だが、不着対策が重要になっている。 | ・緊急時の依頼と言うことを主眼に登録をお願いする。 |

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

| 都道府県名 | 事項名 | 取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。) | 実施結果(効果、問題点等) | 平成21年度計画作成に当たり参考となる事項 |
|------------------|--|--|--|---|
| 大阪府 | 【複数回献血者の確保について】 | ◎複数回献血推進のためのキャッチコピー(標語)を全国から募集した。 | 全国から2880作品の応募があり、関心の高さが伺われた。最優秀作品を活用し、啓発物品やラジオ等で広報した。 | 今後も、献血推進啓発のための募集事業を実施していく。 |
| 大阪府赤十字血液センター | | ① 献血ルームなどでの「Eメールクラブ」会員募集に加えて、大学献血実施の際にも募集を行う。 ② 会員に対する献血要請、および情報提供の実施。 | 会員数:7,325人(平成20年3月31日現在) 大学での献血時、担当職員が「Eメールクラブ」会員の特典を説明したところ、会員数が増加した。 ② 献血協力要請人数:延べ11,515人、 情報提供件数:50件 | 「Eメールクラブ」会員の更なる確保のため、全献血会場(献血車を含む)において募集を行う。また、会員に対するリアルタイムな情報提供のための方策を検討 |
| 兵庫県・兵庫県赤十字血液センター | | 7月の「愛の血液助け合い」運動月間及び1～2月の「はたちの献血」キャンペーン等において、複数回献血についても併せて啓発することとしている。 平成19年度においても同様に実施する予定。 | 市町広報誌(紙)等による献血ルーム、献血会等の紹介。 献血ルームから遠い地域では採血車による献血が唯一の献血手段であり、配車の有無が献血回数に影響する。 | 献血会場における栄養指導、住民健診の場における献血啓発等による献血者の確保 |
| 奈良県 | | 報道機関への積極的な資料提供等の広報活動並びに街頭献血キャンペーンの実施による普及啓発 | 恒常的な血液不足状況に陥った場合、資料提供だけでは状況説明の繰り返しとなり、報道機関に取り上げてもらいにくい。 | 複数回献血を誘引する献血者サービスの実施等、注目されるような話題を効果的に報道機関に取り上げてもらう必要がある。 |
| 和歌山県 | | ◎不採血者への健康アドバイス事業 ・複数回献血クラブ会員確保 ・成分献血ポイントカード配布 | ・比重不足を重点にし、次回の献血につなげる健康アドバイスリーフレット作成説明実施。 ・栄養士による栄養相談実施。 ・はがき、メールによるリピーター確保。 | 継続実施 |
| 富山県・富山県赤十字血液センター | ◎複数回献血クラブ会員募集ポスター、チラシの製作(キャラクターとしてプロ野球独立リーグの地元チーム(BCリーグ)選手を起用) | ・ポスターは1,000枚作成 献血協力事業所及び献血推進団体等に発送 ・チラシは20,000枚作成 献血者に配布 ・ホーム試合会場にて、35回ポスター掲示 | ・県民には関心の高い野球チームであるため、コラボ企画やチーム専属のメディア活用による広報の充実を図る | |

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

ブロック名：中国・四国地区

| 都道府県名 | 事項名 | 取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。) | 実施結果(効果、問題点等) | 平成21年度計画作成に当たり参考となる事項 |
|-------|-----------------|---|---|---|
| 鳥取県 | 【若年層献血者の確保について】 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校生ボランティアの参加・協力を得て、「街頭献血キャンペーン」及び「研修会」の開催 ・高校生献血の推進・中学生・高校生を対象とした献血標語 ・ポスターの募集・小学生・中学生を対象とした親子見学会の開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・約70名の参加があり、高校生自ら献血を行うなど効果的であった。また、研修会では、血液や献血に関する研修は初めてであるという高校生が多かった。 ・保健所及び献血推進員が各高校を個別に訪問し、献血への理解と協力要請を行った。 ・標語：172点 ポスター：44点 ・夏休み中に血液センターで親子見学会を開催するとともに、イベントも行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・広報媒体を活用した啓発 |
| 島根県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・県内全高校生対象に献血に関するクイズ付きのリーフレットを配布、クイズに応募した全問正解者に図書券の贈呈 ・新成人を対象に成分献血に関するリーフレットを配布し、協力を依頼。 ・小学生及び保護者を対象に血液センター見学会及び献血教室を行い、スライドや映像、理解度確認テスト等により必要性を訴えた。 ・近隣の各種専門学校や地元テレビ局のイベント会場等で献血セミナーを行い、必要性を訴えると同時に未経験者へ積極的に呼びかけた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校献血でも400ml献血主体で取組んだが、対象者が制限されたことにより献血参加が消極的となり、リーフレットの配布も取り組みが鈍く応募数が激減した。 ・市町村が実施する成人式で配布いただき一部会場には、採血車を配車して協力を仰いだ。 ・児童、保護者計36名の参加があり、保護者からは学校行事として取り組みたい旨の要望があったため、平成20年度は実施回数を増やすことも検討する必要がある。 ・献血のことを知らなかったと言われる方の多くに協力いただいた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット配布の趣旨等を学校関係者に十分に説明し、より多くの生徒に届くよう方を講じる必要がある。 ・遠方の小学校児童も参加できるよう開催方法を工夫する必要がある。 |
| 岡山県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・学生献血推進連盟等の活動支援 ・高校生献血の推進 ・高校卒業生に対する献血の推進 ・小学生親子血液センター見学体験教室 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種キャンペーン等を実施するにあたり、啓発資料提供等、支援を行った。学生献血推進連盟を支援することにより、同世代である若年層へ献血の必要性を訴えることができた。 ・厚生労働省や岡山県作成のパンフレットを活用したホームルーム活動等を実施した。高校生の献血者数：1,067人(平成19年度) ・400ml献血が可能となる高校卒業生全生徒を対象に、400ml献血への協力を呼びかける啓発チラシを配布した。配布数：約20,000枚 ・夏休み期間中、小学生児童の親子を対象に見学体験教室を実施した。 ・県内139校681名(保護者を含む)の参加があった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生献血推進連盟構成員の増員及び新規加入校の勧誘を行うことにより、若年層への献血知識の普及を図る。 ・正しい献血知識の普及啓発と献血思想の醸成が必要。 ・400ml献血に対する知識の普及啓発が必要。 ・幼・小児期からの献血知識の普及及び父兄への献血思想の普及は必要。 |
| 広島県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・中高生を対象とした啓発用のポスター図案募集 ・小学生を対象にした体験学習会の共催 ・学生ボランティア活動の支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・広島県献血推進ポスター募集 応募総数274名(中学生251名、高校生23名) 最優秀賞1点、優秀賞5点、佳作10点選出 ・血液センター見学会「なるほど献血教室」共催 夏休みの7月31日、8月1日、2日に開催 参加者230名(こども138名、保護者92名) ・中四国学生統一献血キャンペーン(8/12、13) 全国学生クリスマスキャンペーン(12/23) 広報支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・献血離れの著しい若年層献血者の確保と献血意識の向上 ・子どもを通じて保護者への啓発 ・400ml献血がしたくてもできない者(比重不足、体重など)に対するケア 学校での食教育など |

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

| 都道府県名 | 事項名 | 取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。) | 実施結果(効果、問題点等) | 平成21年度計画作成に当たり参考となる事項 |
|-------|-----------------|---|--|--|
| 山口県 | 【若年層献血者の確保について】 | <ul style="list-style-type: none"> 小学生親子血液センター見学体験教室 小・中学生を対象とした「献血出前講座」の開催 高校生等ボランティアの協力を得た、献血キャンペーンの実施 高校卒業記念献血キャンペーン(3月2～31日) 山口県学生献血推進協議会の育成 献血推進ポスター・作文の募集(中学・高校生)及び表彰式・発表会の開催 献血読本「SEISHUN!献血」作成配布による啓発 | <ul style="list-style-type: none"> 参加児童から多くの意見・質問・感想をいただき、将来献血可能年齢に達したとき必ず献血をサポートしてくれることが確信できた。 夏期14カ所 冬期10カ所で開催し、多くの高校生ボランティアの参加を得ることができた。 山口市内の高校3年生を対象に実施。 研修会や七夕献血、クリスマスキャンペーン等を通じた啓発の実施・ポスター168点、作文120点の応募があり、献血の必要性を訴えた作品が多い。 高校1年生全員及び、全中学・高校の各クラスへ配布(17,400部) | <ul style="list-style-type: none"> 小学生など、年少期から献血への理解を深めることが必要であることから、学校(教育委員会)との連携の強化が必要。 献血体験の機会をつくる必要がある。 |
| 徳島県 | | <ul style="list-style-type: none"> 献血メイト20's推進事業 将来にわたって安全な血液製剤を安定して確保するため、若年層(特に20歳代)献血の一層の推進を図る。 ◎メモリアル献血キャンペーンの実施(グループ献血の推進) ○献血メイト20's推進キャンペーン事業の実施 ○若年層向け献血啓発小冊子「献血のおはなし」を作成し、成人式の会場等で配布した。 ○中・高校生を対象とした献血推進ポスターの募集、入賞作品の表彰及び展示。 | <ul style="list-style-type: none"> 効果 若年層への献血思想の啓発が図られた。 問題点 従来、初めて献血を体験する貴重な機会として、高校生の学校内献血を実施してきたが、400mL献血の推進という観点から、19年度途中からこれを休止している。学校内献血の代替となり得るような、効果的な普及啓発及び献血体験の場を確保することに苦慮している。 | <ul style="list-style-type: none"> 各種イベント、キャンペーンの効果的なPR ボランティア活動としての献血意識の向上 |
| 香川県 | | <ul style="list-style-type: none"> 高校生や大学生の献血ボランティアを対象としたキャンペーンを実施。 小学生を対象とした親子血液センター見学教室や、献血出前講座を昨年度初めて実施。 若年層が多く集まるプロバスケットボールの試合会場において献血PRイベントを実施。 | <ul style="list-style-type: none"> 献血ボランティアへの参加や、献血に関する基礎的な知識の学習により、なぜ献血が必要なのかを理解してもらえ、自分も献血に協力したいという気持ちに多少なりともつながることができた。 より多くの若年層に普及啓発を図るため、今後は保健所職員等の協力も得ながら、これらの事業を継続していきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 地方では、人も予算も減少しており、県レベルでの大々的な広報は難しい。テレビコマーシャルによる広報は、インパクトも強く、非常に効果が高いと考える。国や日赤本社レベルでご検討いただけないか。 |
| 愛媛県 | | <ul style="list-style-type: none"> 小学生親子血液センター見学体験教室の開催 学校に対する普及啓発資料の提供及び献血出張教室の実施。 大学におけるボランティアサークルに対する活動の支援。 | <ul style="list-style-type: none"> 「見学体験教室」は7月30日から5日間開催し、参加者児童103人、保護者74人の合計177人の参加があった。 将来の若年層に対しては、血液のはたらきや献血に興味をもってもらった。 小学生親子血液センター見学体験教室では、病院での実際の輸血現場も見学してもらい、命の大切さ・尊さについて実感してもらい好評であった。 大学生のボランティアサークルに対しては、献血の正しい知識の普及及び若年層の献血意識の向上を図るための活動を支援した。 | <ul style="list-style-type: none"> 本県でも若年層献血者数の減少が顕著であるため、将来の「献血予備軍」である小・中学生の普及啓発を行うとともに、大学生・専門学校生に対する献血呼びかけを推進し、引き続き若年者確保に取り組む必要がある。 |
| 高知県 | | <ul style="list-style-type: none"> ヤング献血スクールとして、高校生を対象に学校での献血体験や呼びかけの体験を実施 血液センター見学会(中学生) 各種団体青年部を対象とした献血セミナー 学生や楽団による献血PR | <ul style="list-style-type: none"> 私立校2校で延べ3回実施 中学生対象の見学会は参加希望校がなく実施ができなかった。 2回実施。組織的な協力が必要 2回実施。若者を引き付けるものが必要 | <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会との連携の強化が必要。 校長会や養護教員研修等への参入、献血バス予定表の各学校への配布(まず教職員の協力から) |

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

| 都道府県名 | 事項名 | 取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。) | 実施結果(効果、問題点等) | 平成21年度計画作成に当たり参考となる事項 |
|-------|--|--|--|--|
| 鳥取県 | 【安定的な集団献血の確保について】 | <ul style="list-style-type: none"> 企業団体献血の推進強化 地方自治体による集団献血の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 二次医療圏ごとに配置している献血推進員が企業団体を訪問し、協力依頼を行っている。 県・市町村・血液センターで献血推奨班を編成し、企業訪問を行っている。 各市町村との連携強化を図り、効率的な献血者確保を図っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 県・市町村・血液センターとの連携強化が献血推進に効果的であることから、更なる具体的実施事項を明記する。 |
| 島根県 | | <ul style="list-style-type: none"> 実績に基づき、1稼働当たり、400ml、40本を目標に配車を計画し、ハガキやメールでの要請行動を行い、当日、近隣事業所への協力依頼を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> 1稼働当たり平均37名の協力を得た。 要請を行った2,357人の内、190人(8%)の協力があった。 依頼した近隣987事業所中371事業所から協力を得、メイン会場の36.2%で前年度より実績が増加した。 | <ul style="list-style-type: none"> 稼働効率を上げるためには、小規模な事業所を数多く回るより、土日開催のイベント等に配車して目標本数を確保することの検討が必要がある。 |
| 岡山県 | | <ul style="list-style-type: none"> 郊外の大型ショッピングモール等への配車 | <ul style="list-style-type: none"> 天候や献血間隔に左右されない県運転免許センター及び大型ショッピングモールへの集中配車を行うことにより、ほぼ安定的に献血者を確保することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 継続的な献血者の確保ができる新規献血会場の開拓が必要。 |
| 広島県 | | <ul style="list-style-type: none"> 血液センターと連携して、職域団体、学校等における献血推進のための呼びかけ 市町と地域献血組織の連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> 各市町へ献血推進ポケットティッシュの配布(地域献血推進団体配布用)。 血液不足時に県施設において緊急献血実施 | <ul style="list-style-type: none"> 集団献血による適正在庫数の確保 不足予想時の緊急対応 |
| 山口県 | | <ul style="list-style-type: none"> ライオンズクラブ等各種協力団体、事業所での定期的な献血の実施。 新規団体、事業所等への調査、訪問 | <ul style="list-style-type: none"> 例年どおり実施 国の75出先機関に対し、調査を行うとともに協力要請訪問の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 協力団体とのコミュニケーションは不可欠 |
| 徳島県 | | <ul style="list-style-type: none"> 血液の不足する時期には、県庁等の大規模な事業所での企業献血を実施。 市町村、各保健所等より移動採血車の配車日を広報しPRしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 計画的な配車により、安定的に血液を確保することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 新たな協力企業の開拓 |
| 香川県 | | <ul style="list-style-type: none"> 市町担当者会を実施し、市町の責務について再確認し、地域献血の推進を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> 市町の献血担当者が複数の業務を兼務しており、献血に関わる時間が限られている。そこで担当課長会を開催することで、献血の重要性を認識してもらい、推進に努めてもらった。 | <ul style="list-style-type: none"> 表彰制度の価値をより高めるため、表彰団体数の検討が必要であると考える。 献血サポーターのロゴマークの周知をはじめ、サポーター団体名の積極的な広報が必要である。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 献血優良団体や積極的な献血推進団体に対し、知事から直接、表彰状の授与・伝達を行った。 献血サポーター制度の活用。 過去に献血実績はあるが、しばらく献血を行っていない事業所の再開拓に取り組んだ。 | <ul style="list-style-type: none"> 献血に理解のある団体を表彰することで、今後の積極的な取組につなげることができるものの、人口規模や企業数の少ない本県では、将来にわたって新たな団体を表彰し続けることは困難である。 献血サポーターに指定された団体名は、ホームページに掲載されているものの、より効果を高めるため、他の広報媒体による周知も必要と考える。 | |
| 愛媛県 | <ul style="list-style-type: none"> 企業等組織的な献血の協力団体に対し、協力回数を増やしてもらうよう要請。 新規協力事業所の発掘。 | <ul style="list-style-type: none"> 安定的な献血者の確保。 約60団体の協力団体。(ライオンズクラブ・建設業協会)(問題点)協力団体構成員の高齢化の進行。 | <ul style="list-style-type: none"> 協力団体、協力事業所の確保は安定的な血液の確保につながるため、引き続き取り組む。 | |

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

| 都道府県名 | 事項名 | 取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。) | 実施結果(効果、問題点等) | 平成21年度計画作成に当たり参考となる事項 |
|-------|-----------------|---|---|---|
| 高知県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・高知市内LC合同献血 ・商工会青年部、県遊戯業協同組合による県下の取り組み ・専門学校による1000人献血キャンペーン | <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な呼びかけ、献血協力が得られた。 ・新たな献血者が確保できた。 ・H18. 6月にスタートし、1年後のH19. 6月に目標を達成することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・青年会議所への働きかけを行う ・高知市内LC献血推進研究会の立ち上げをお願いする。 ・企業に対して、献血サポーター登録をお願いする。 |
| 鳥取県 | 【複数回献血者の確保について】 | <ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血クラブ会員の更なる募集 ・街頭献血への協力の呼びかけ | <ul style="list-style-type: none"> ・会員への情報誌やチラシの発送とともに、血液不足時にメール等で協力依頼を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・固定的な献血者の確保及び緊急時の即時対応が行える体制作りと登録者へのサービス内容。 |
| 島根県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・献血者全員に「複数回献血者クラブ」入会募集のパンフレットを配布し、入会を促した。 ・400ml献血登録者を募集した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・移動採血で400ml献血いただいた14,685人中708人(4.8%)に入会をいただいた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・入会のメリットを積極的にアピール |
| 岡山県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血クラブ「ももたろうEメールクラブ」の周知 | <ul style="list-style-type: none"> ・募食用パンフレットを作成し、全献血者に配布し、登録への依頼を行った。 ・検査及び着メロのサービス等、メリットを訴えた。会員数:1,443人(平成19年度末現在) | <ul style="list-style-type: none"> ・メールによる操作が必要なため、登録まで至らないこともあるため、引き続き、献血実施後の休憩時間等を利用して、現場での登録を推進する必要がある。 |
| 広島県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・次回献血を促す資料の作成、配布 ・不適格者(比重不足)に対する健康管理のアドバイスなどのサービス提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・啓発パンフレットの作成、配布 ・比重不足により献血できない方に対して、健康管理のためのリーフレット配布 ・献血ルームにおいて栄養士による栄養相談実施(2月) | <ul style="list-style-type: none"> ・献血不適格者へのフォローアップ及び次回献血の案内等による計画的な年間献血者の確保 |
| 山口県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血クラブチーム35会員の募集 | <ul style="list-style-type: none"> ・メールやDM等を活用した献血依頼の実施(現在会員約900名) | |
| 徳島県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・過去の献血協力者を対象とした、ハガキによる献血依頼等(血液センター) ・複数回献血者への記念品の贈呈 ・複数回献血クラブ(Let'sけんけつクラブ)への登録(血液センター) | <ul style="list-style-type: none"> ・新たな複数回献血者が得られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・初回献血から複数回献血への移行の推進 |
| 香川県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・献血依頼のハガキに複数回献血クラブへの登録の案内を掲載し、推進した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生を中心とした若年層の献血者の登録があったものの、登録数があまり増えていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・会員特典の充実や広報により、登録者数増につなげたい。 |
| 愛媛県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・血液センターにおいて「複数回献血クラブ(愛称:リピートあいビー)」を設置。 ・年2回以上複数回の献血に協力してもらえ献血者を募集。携帯電話やパソコンから登録、メールで献血を依頼。 | <ul style="list-style-type: none"> ・19年度までの会員登録総数は867人。 ・緊急時の献血者確保につながっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・登録者数の増加を図るために、積極的に広報を行う。 |
| 高知県 | | <ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血用推進パンフレット、チラシ、推進カードの配布。献血メールクラブの活用 ・協力団体から名簿の提供→ダイレクトコール ・栄養相談、健康相談 | <ul style="list-style-type: none"> ・複数回クラブ会員は徐々に増加傾向にあり、献血への参加実数も増加している。 ・栄養相談、健康相談はいまひとつ盛り上がりに欠けたことから、企画を検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・比重落ちの献血者への健康管理に対しての指導。 |

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

ブロック名：九州地区

| 都道府県名 | 事項名 | 取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。) | 実施結果(効果、問題点等) | 平成21年度計画作成に当たり参考となる事項 |
|-------|-----------------|--|--|--|
| 福岡県 | 【若年層献血者の確保について】 | <ul style="list-style-type: none"> ○学生献血推進協議会を中心とした啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> ・定例会、リーダー研修会の実施 ・献血キャンペーン中に学生によるイベントの実施 ○小学生を対象とした冊子の作成・配布 ◎小学校・中学校へ出張授業の実施 ◎大学生のインターンシップ受け入れ ◎インターネットを活用した啓発 | <ul style="list-style-type: none"> ○リーダー研修会 1泊2日 約60人参加 <ul style="list-style-type: none"> ・学生メンバーの企画によるクイズ、アトラクション、模擬店などを実施し、同世代へ献血参加を呼びかけた。(延べ参加者約200名) ○県内小学校194校に対し18,800部を配付し、次の世代への啓発を行った。 ◎学校からの要請により献血の大切さを教える出張授業を実施した。(2校 201人) ◎血液センターへの就労体験に県内の大学生を受け入れ、血液事業への理解を深めてもらった。(県内7大学から9名 各10日間) ◎献血の基礎知識、献血バス運行予定表、Q&Aなどを県のホームページに掲載し情報提供を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ○新規の若年層の献血者確保のため、インターネット等若年層に利用の多い媒体による啓発 |
| 長崎県 | 【若年層献血者の確保について】 | <ul style="list-style-type: none"> ○教育現場における献血の推進 ◎県内中学生及び高校生を対象とした献血普及啓発ポスターの募集 ○学生献血者の確保及び学生への啓発活動 | <ul style="list-style-type: none"> ○県高等学校長会、養護教諭理事会における献血普及啓発への協力の要請 ○合計63点の応募 ○学生ボランティア対象の研修会実施(30名程度参加) ○専門学校等の血液センター見学会実施(長崎50名参加、佐世保50名参加) ○サマーイベント等の際に学生による献血呼びかけや記念品配布等 | <ul style="list-style-type: none"> ○応募数増加のために募集時期等を考慮する必要がある。 |
| 熊本県 | 【若年層献血者の確保について】 | <ol style="list-style-type: none"> 1 熊本県学生献血推進協議会への支援 10大学(12校舎)の学生献血推進リーダーへの研修、学園祭等での献血推進 2 小・中・高校生対策 啓発チラシ・グッズの配布(小・中・高の各卒業生用として各2万部配布) | <ol style="list-style-type: none"> 1 各キャンペーン(学生献血クリスマス、はたちの献血)等において、学生が献血を呼びかけることにより、特に若い世代間の連帯感を育むとともに、将来的に献血者を確保する。 2 献血について、若いうちから意識付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> 日頃から学内等において効果的な啓発活動を展開し、献血未経験者の増加を図る方策の検討。 |

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

| 都道府県名 | 事項名 | 取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。) | 実施結果(効果、問題点等) | 平成21年度計画作成に当たり参考となる事項 |
|-------|-----------------|--|---|---|
| 大分県 | 【若年層献血者の確保について】 | 1. 小学校PTA献血 2. 中学生の施設見学及びボランティアの受入れ 3. 高校生対象の学内献血(400mL献血)の実施 4. 高校JRC生徒に対する献血についての講話 5. 学生対象の成分献血希望者の送迎 6. 青年会議所等への講話、ビデオ鑑賞 7. 学生主催献血イベントの実施 J-1サッカー試合前ピッチでの啓発活動 | 1. 父母の献血をする姿を見ることにより献血の啓発に繋がった。(問題点)母親が比重不足等で献血が出来ないケースが多い。 (小学校5校、幼稚園 日曜日) 2. 血液センターの施設見学、概要説明や献血ルームでのボランティア活動を通して献血の重要性を学んでもらった。(問題点)集約化により検査、製剤業務が無いので、今後は九州センターへの施設見学になるかと思われる。 3. ほとんどの学校にお願いに行ったが学校現場における400mL献血は困難。(問題点)先生方の献血に対する認識、意識が希薄であること及び授業時間に及ぼす影響で問題がある。 4. JRC生徒に献血への理解を深めてもらい、献血受付時のボランティアとしての活動にも協力頂いた。 5. 献血ルームにおける初回献血者を含む成分献血者が増加。 6. 献血の必要性に対する理解が深まり、会議所主催献血時の献血者の増加。 7. 入場している全てのサポーターへアピールができた。 | 1. PTA献血に取り組むことで、家庭内における献血の会話ができること。また、校内での献血風景が見られことにより生きた献血の啓発活動ができる。 2. 九州血液センターとして施設への見学者(団体)の受入れ体制はできている。 3. 学校側への継続的な働きかけが必要。 4. 講話のみならず、ボランティアとして献血活動に協力いただくことにより、より理解を深めてもらう。 5. 学生は入れ替わるので毎年継続的なPRが必要。 6. 若年層献血に繋がる組織的な協力団体の開拓(商工青年部・学生自治会・体育会など) |
| 宮崎県 | 【若年層献血者の確保について】 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層を対象に献血呼びかけのテレビCMを「はたちの献血キャンペーン」の期間に放映。 ・ 学生献血推進協議会を中心に献血者確保のイベント実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ CM出演者が、知事及び地元出身歌手と話題性はあったが、献血者の増加につながったかどうかの効果判断が困難。 ・ 学生ボランティアが呼びかけることで、その友人や同世代の若者への啓発・献血協力が得られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中高高校生への献血啓発手段の検討が必要。 |
| 鹿児島県 | 【若年層献血者の確保について】 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生を対象とした献血おもしろゼミナール ・ 中学生3年生を対象とした血液教育事業 ・ 県学生献血推進協議会の育成・強化 ・ 九州ブロック学生献血推進サミットin鹿児島開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 献血可能年齢に達した時の献血への協力が得られた。(200校、16,680人) ・ 同世代の者が呼びかけることにより、若年層に対し、効果的な献血思想の啓発が図られるとともに、「九州ブロック学生献血推進サミットin鹿児島」の開催で活動が活発化した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 献血キャラクター「けんけつちゃん」の活用。(啓発用Tシャツの作成等) ・ 高校生献血の拡大(教師・PTAを取り組む) ・ 献血不適合者のフォローアップ |
| 沖縄県 | 【若年層献血者の確保について】 | 将来の献血制度を支えていく高校生を対象に「献血教室」を実施している。 | 献血教室は、血液の仕組み等と輸血体験談の2部で構成しており、実際に輸血で命をつないだ方の体験談をおし、献血の大切を実感してもらっている。 しかし、献血教室の開催については、学校側の指導要領に含まれていないため、同じ高校しか行っていないのが現状である。 | |

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

| 都道府県名 | 事項名 | 取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。) | 実施結果(効果、問題点等) | 平成21年度計画作成に当たり参考となる事項 |
|-------|-------------------|--|--|--|
| 佐賀県 | 【若年層献血者の確保について】 | 1. 学生献血推進委員の研修 2. 「はたちの献血キャンペーン」に併せたイベントの開催 ◎3. 映画館での献血啓発CM放映 4. 卒業前高校献血教室 5. 大学、専門学校等での献血協力者へ献血啓発品を配布 6. ライオンズクラブ共催による大学献血 | 1. 献血の基礎知識習得。 2. 献血クイズなどを通し献血の知識を普及。若者の献血 3. 若者が集まる映画館でCMを通し献血への呼びかけ。(2箇所の映画館:3コマ静止画2ヶ月、15秒動画1ヶ月放映) 4. 卒業間近の3年生に献血の基礎知識を習得。 実施校を増やす必要有り(現在2校)。 5. 初めての献血のきっかけになった。 6. ライオンズクラブからの共催記念品が好評。 | 高校生などを対象とした献血教室の実施。 |
| 福岡県 | 【安定的な集団献血の確保について】 | ○献血協力団体・市町村担当者研修会の開催 ライオンズクラブとの合同研修会 福岡県における献血事業についての説明 献血の必要性についての講話 ○ライオンズクラブ、血液センター、県の三者による意見交換会 | ○血液事業の現状と課題について説明し、献血に対する協力を呼びかけた。 県内4地区で計6回開催 計454名参加 ○献血事業を進める上での課題と対応策について意見交換を行うことができた。 | ○行政、企業、各協力団体との連携の推進 行政、企業、各協力団体と連携して情報交換、意見交換の場を設け、血液事業への理解促進、協力体制の強化を図る。 |
| 長崎県 | 【安定的な集団献血の確保について】 | ○新規事業所及び献血協力団体の開拓 | ○19年度は59団体を新たに開拓(毎月5団体開拓する事業目標) | |
| 熊本県 | 【安定的な集団献血の確保について】 | 献血推進リーダーの活用 (リーダー:献血協力団体等において、その組織における献血啓発と献血計画等行政との連絡・調整に当たる者を献血推進リーダーとして県が委嘱。 リーダー数:430人) | 安全で安定した血液の確保が見込まれるが、献血者の固定化傾向が見られ、献血未経験者との二極化が懸念されることから、更に効果的な啓発等施策を講じて献血経験者を増やしていく必要がある。 | 献血未経験者や献血から遠ざかっている人達を掘り起こし、献血会場へ向かわせる方策の検討。 |
| 大分県 | 【安定的な集団献血の確保について】 | 1. 自衛隊駐屯地における年間献血実施回数増への取り組み 2. 地元ラジオ局(1局)の血液センター有料放送枠の中で企業、団体献血協力の呼びかけ放送実施(平成19年11月から放送) 3. 学内献血実施時の特別処遇品の進呈 | 1. 19年度下半期に3箇所の駐屯地司令との話し合いで20年度に回数を増やして実施(3駐屯地計年9回→年14回へ) 2. 2団体が協力(実績200mL献血:6人、400mL献血:52人) 3. 若年層献血者が減少する中で対前年比400mL献血者は若干増加(学推協加盟校実績2,204人→2,260人) | 1. 20年度実績を踏まえ3駐屯地とも年6回実施に向けて推進を図る |
| 宮崎県 | 【安定的な集団献血の確保について】 | ・献血協力企業や団体への献血推進リーダーの設置及び研修会の開催。 ・成分献血協力企業名の新聞掲載 ・献血サポーター事業への参加推進(平成20年度新規事業) | ・企業や団体に、推進リーダーを設置することで、より一層の献血協力を図り、献血者を安定的に確保することが期待できる。 ・企業の献血貢献をアピールし、県民にも成分献血を認識してもらえ。 ・献血サポーター事業によるサポーターマークの活用事例が少なく、参加要請し難い。 | ・新たな協力企業の確保。 ・全国レベルでのサポーターマーク使用の参考となる事例の紹介。 |
| 鹿児島県 | 【安定的な集団献血の確保について】 | ・ライオンズクラブ献血推進セミナー ・市町村献血推進協議会の再構築 | ・セミナー参加者:74名 ・市町村合併及び財政難のため活性化がむずかしい。 | ・市町村献血推進協議会及びボランティア団体が連携した広報活動の強化 ・献血協力事業所の新規開拓 |

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

| 都道府県名 | 事項名 | 取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。) | 実施結果(効果、問題点等) | 平成21年度計画作成に当たり参考となる事項 |
|-------|-------------------|---|---|--|
| 沖縄県 | 【安定的な集団献血の確保について】 | 各保健所に献血推進員を配置し、直に企業等へ献血の協力を依頼している。 | 献血推進員が直に企業へ献血を依頼するため、即実績となる。 | |
| 佐賀県 | 【安定的な集団献血の確保について】 | 1. 献血協力企業団体への協力依頼。 2. 地域献血の強化について市町担当者に依頼。 | 1. 保健福祉事務所担当が、直接事業所へ協力依頼に出向くことが少なくなっている。 ライオンズクラブの研修会ができなかった。 2. 地域献血の協力が少ない | 1. 継続した献血への協力依頼が必要。2. 献血協力団体であるライオンズクラブと共催することで高い実績を得られることがある。 |
| 福岡県 | 【複数回献血者の確保について】 | ○成分・全血献血者の登録の実施 固定施設(献血ルーム)及び移動採血会場において登録を依頼し、登録者に対して電話、ハガキ、メールによる依頼を実施 ○県職員の登録 | ○登録者数は順調に伸びている。 H19年度末登録者数 ()内18年度末 ・PC-CLUB 2,482人 (1,713人) ・メールクラブ 1,523人 (460人) ・400mL献血 391人 (H19.5.21～) ○血液不足時における協力依頼 | ○今までは、血小板を主体とした登録を行っていたが例年冬季に赤血球が不足するため、平成19年5月から血液型不足に対しても対応できるよう400ml献血の登録を継続している。 |
| 長崎県 | 【複数回献血者の確保について】 | ○400mL・PC献血クラブの会員を募集 | ○19年度は新たに354名を登録 | |
| 熊本県 | 【複数回献血者の確保について】 | 血液センターが取り組んでいる年間を通して複数回の献血に協力可能な人で構成する「複数回献血クラブ」の推進支援 | 複数回献血クラブ会員に対し、血液型別不足時の緊急的な献血依頼や複数回献血への積極的協力を依頼した。 | 複数回献血を呼びかける「知事からのメッセージ」作成検討中。 |
| 大分県 | 【複数回献血者の確保について】 | 検査結果異常なしの初回献血者及び献血ルームでのリピータに登録のお願い文書を出し、年間目標の確保。 | 19年度入会者732人を確保。安全な輸血用血液の確保。 | 広報誌、冊子等へ掲載してPR。 |
| 宮崎県 | 【複数回献血者の確保について】 | ・宮崎県複数回献血クラブの登録推進。 | ・登録者数がなかなか伸びない。 | ・年に1回の献血協力者に対し、2回目以降の協力をお願いして、クラブへの登録を推進。 |
| 鹿児島県 | 【複数回献血者の確保について】 | ・複数回献血クラブの普及啓発 | ・クラブ会員数:699名 前年比:237% 平成20年3月末 ・10/20(土)、11/10(火)実施 | ・会員特典のPR ・献血登録者の同クラブへの移行 ・夏場の献血協力者に対して、更に冬場の献血も要請していく。 |
| 沖縄県 | 【複数回献血者の確保について】 | ◎献血に対する正しい知識を県民にもってもらうため、県の広報番組で「献血について」を作製し、放映した。その中で、複数回献血者の登録制度を紹介した。 | 市町村の協力のもと、複数回献血者確保対策に取り組む必要がある。 | |
| 佐賀県 | 【複数回献血者の確保について】 | 登録用パンフレットを活用して案内。 | 平成20年3月末現在760人 | 登録者に対しリーフレット・情報誌等の配布、健康相談を行う。 |

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。